

栄養学 I	1年・前期	1単位 15時間	非常勤講師 田口郁美
科目カテゴリー	看護の対象の理解	科目ナンバリング	32110261

1. 授業のねらい・概要

学生は、食品に含まれる栄養素の種類や働き、体内変化の生化学的過程について理解を深め、健康を維持・増進するための適切な食事摂取について学ぶ。さらに、治療食の意味を理解し、疾患の回復・維持、健康増進のための効果的な食事管理を実践できるよう、疾患と栄養との関連、疾患別食事管理、チーム医療の意義などについても学ぶ。

2. 学修の到達目標

1. 食品に含まれる栄養素の種類について理解し説明することができる。(D-2)
2. 食品に含まれる各栄養素の働きについて理解し説明することができる。(D-2)
3. 各栄養素の体内における変化や生化学的過程について理解し説明することができる。(D-2)
4. 健康を維持・増進するための適切な食事摂取について理解し実践することができる。(D-2)
5. 疾患と栄養との関連を理解し説明することができる。(D-2)
6. 疾患別の食事管理を理解し説明することができる。(D-2)
7. 食事療法を理解し説明することができる。(D-2)
8. 栄養管理におけるチームアプローチの意義を理解し説明することができる。(D-2)

3. 授業の進め方

テキストを中心に配付資料を活用し、要点を確認しながら講義を進める。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、調査学習、ロールプレイ、小テスト・レポートを活用する。

【ICT活用の有無】

ICTは活用しない。

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学習（学習課題）	担当
1	臨床栄養学の基礎知識 1 (臨床栄養学の意義と看護)	講義	予習: テキスト「健康と栄養」「臨床栄養学の意義と看護」の部分を読んでおく 復習: テキストやまとめたノートなどを活用し授業内容を振り返る	田口郁美
2	臨床栄養学の基礎知識 2 (栄養の概念と栄養素, 栄養アセスメント)	講義	予習: テキスト「栄養の概念と栄養素」をまとめておく 復習: テキストやまとめたノートなどを活用し授業内容を振り返る	田口
3	食品成分と食事摂取基準 (食品成分とエネルギー, 日本人の食事摂取基準 2025年版)	講義	予習: テキスト「食品成分と食事摂取基準」についてまとめておく 復習: テキストやまとめたノートなどを活用し授業内容を振り返る	田口
4	療養生活と栄養 (治療による回復を促すための食事と栄養管理)	講義	予習: テキスト「療養生活と栄養」についてまとめておく 復習: テキストやまとめたノートなどを活用し授業内容を振り返る	田口

5	疾患別の栄養食事療法 1 (消化器系疾患)	講義	予習：テキスト「疾患別の栄養食事療法 消化器系疾患」について読んでおく 復習：テキストやまとめたノートなどを 活用し授業内容を振り返る	田口
6	疾患別の栄養食事療法 2 (内分泌・代謝疾患、循環器・ 呼吸器系疾患、腎疾患)	講義	予習：テキスト「疾患別の食事指導と栄養 療法内分泌・代謝疾患、循環器・呼吸器系 疾患」についてまとめておく 復習：テキストやまとめたノートなどを 活用し授業内容を振り返る	田口
7	栄養食事指導の実際 (食習慣改善のための栄養食事 指導、チームアプローチ)	講義	予習：テキスト「食習慣改善のための栄養 食事指導」についてまとめておく 復習；テキストやまとめたノートなどを活 用し振り返る	田口
8	前半 まとめ 臨床栄養学の授業の内容を振り 返る 後半 試験 (食品成分と食事摂取基準、疾 患別栄養食事療法)	講義 試験	予習：テキストの内容、課題、まとめた ノートなどを見直す 復習：試験問題を振り返る	田口

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席が必要）70%，課題レポート30%で，総合的に評価する。
成績評価は「2. 学修の到達目標」に示した評価観点毎に，ルーブリック評価（到達はA評価）とする。
評価基準詳細（ルーブリック）については初回講義内で別途説明する。

定期試験の出題範囲および出題方法は事前に口頭で提示する。

課題レポートのテーマは「疾患別食事管理」から出題（1回）。課題詳細・提出期限・提出場所等は講義内で事前に口頭で提示する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：關戸啓子/河原田律子/築田誠編集 疾病の成り立ちと回復 ④臨床栄養学ナーシンググラフィカ 株式会社メディカ出版 2026

参考文献：香川明夫監修『食品成分表 2026』女子栄養大学出版部

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

テキストを活用し，シラバスの事前事後学習（学習課題）に従って毎回90分以上の予習と90分以上の復習をして受講すること。

8. 受講上の留意事項

授業中の私語など授業態度も評価対象とするので注意すること。

毎日の食生活が心身の健康と密接に関係があることを認識し，自らの食生活を充実させるよう努めること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験終了後，解答を掲示し周知する予定。課題レポートの講評は講義内で行う。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目である。（履修要項・学生便覧参照）

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

地域住民への食育活動，特定保健指導，母子健診，クリニックでの栄養相談業務及び専門学校（看護師）講師としての経験を活かして講義を行う。